

令和3年度 各圏域の地域医療構想調整会議開催結果概要

| 圏域 | 開催日 | 協議議題 | 主な意見等 |
|--------|------------------------|--|--|
| 宇摩 | 9月3日 (書面) 10月19日 | <ul style="list-style-type: none"> ・役員の選出について ・中核病院(四国中央病院)建設計画について ・地域医療介護総合確保基金について | <p>・中核病院建設は、地域医療構想の施策の方向と一致しているが、圏域内の病院が互いに連携して地域中核病院の役割を担っていくことが理想であるため、診療科の機能分化などこれまでの経緯等を踏まえて細かいところでの合意が必要不可欠。</p> |
| 新居浜・西条 | 9月15日 (書面) | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度病床機能報告の状況について ・地域医療介護総合確保基金について | <p>・2025年の必要病床数について、人口減少や医師数の変化を加味して見直しの必要があるのではないか。 →、厚生労働省から示された方法に基づいて算出されたものであり、今のところ見直しを図る予定はないが、この医療需要はあくまで将来あるべき姿の推計ですので、各構想区域の調整会議を中心に、実情を踏まえた上で将来の病床の必要量や、実現に向けた協議・連携を図っていく。</p> <p>・新居浜市医師会の事業を通じて、複数の県外出身者から来年度初期研修医の応募があった。 →新居浜市医師会としての当該事業は今年度で終了となるが、来年度以降も形を変えて継続することが決定した。若手医師の当圏域への定着を促進するために、皆様の更なる連携をお願いしたい。</p> <p>・新居浜・西条圏域の大きな課題である救急医療体制の維持等に基金を活用できるよう考えてほしい。</p> |
| 今治 | 9月10日 (書面) | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度病床機能報告制度の状況について ・令和4年度地域医療介護総合確保基金事業の要望について | <p>・確実に今治地区の病床数は減っていく中で構想を考えるうえで、数を読む時に配慮が必要。</p> <p>・今治の病床機能別病床数で高度急性期の報告病床数が26床と2025年の必要病床数119に比べてかなり少ないと思われるが、これをカバーするように急性期の報告病床数は必要病床数に比べてかなり高くなっている。これは医療機関内の医師、臨床工学士のスタッフ不足が根本にあると思われる。慢性期の病床数は減少傾向になっているが、これは在宅医療関係施設数の充実でカバーしていく方向になると思う。</p> |
| 松山 | 9月9日 (書面) | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度病床機能報告の結果について ・病床機能等の変更に関する情報提供書の運用状況について ・新棟オープンに伴う病床数変更等について(松山赤十字病院) ・令和4年度地域医療介護総合確保基金事業の選定について | <p>・2025年の機能ごとの必要病床数に近づけるよう、県が中心となって議論を進めていただきたい。</p> <p>・地域医療構想の具体的対応方針の再検証等の期限について、改めて国で整理することとされているが、新型コロナへの対応を踏まえ、地域の実情に応じた医療提供体制を整えていくため、新たな再検証の期限や取り組みの進め方を取りまとめ、早急にお示しいただきたい。</p> |

| 圏域 | 開催日 | 協議議題 | 主な意見等 |
|--------|---------------|--|---|
| 八幡浜・大洲 | 9月10日 (書面) | <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)事業要望について ・令和2年度病床機能報告について | <ul style="list-style-type: none"> ・年々2025年の必要病床数に収れんしている。 ・医療機関の介護医療院への転換や病床削減の動きを把握しており、計画が提出され次第、改めて調整会議を開催する予定。 |
| 宇和島 | 9月8日 (書面) | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度病床機能報告の結果について ・令和4年度地域医療介護総合確保基金(医療分)事業について | <ul style="list-style-type: none"> ・2025年に向けては順調に進んでいると思われるが、コロナ禍で不透明になってきた(厚労省がどのように舵を切るのか)。 ・2025年の機能ごとの必要病床数に近づけるよう、県が中心となって議論を進めていただきたい。 ・連日、都内では、軽症のコロナ感染者の受け入れ病床、抗体カクテル療法のできる病床をと報道している。通常の病床数、有事の場合の病床数、この差をどうやってうめていくのが問題。 |